様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ９ 月 １６ 日現在

機関番号：１４４０３
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2011～2014
課題番号：２３３３０２０２

研究課題名（和文）成人期のアイデンティティ再構築に関する生涯発達心理学的縦断研究

研究課題名（英文）Developmental psychological longitudinal study of identity formation in adulthood

研究代表者
白井　利明（Shirai, Toshiaki）

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：００１７１０３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　15,300,000円

研究成果の概要（和文）：成人期のアイデンティティ再構築を時間的展望の視点から解明するために、縦断研究を行った。質問調査と面接調査を実施した。その結果、20代の未来指向は、コミットメントを強めることをとおして、アイデンティティを発達させた。他方、現在指向は、コミットメントを弱めることをとおして、アイデンティティを退行させるとともに、探求を高めた。以上から、青年期のアイデンティティを問い直す成人期前期のアイデンティティ発達は、未来指向と現在指向の両方が必要であるとされた。これはバランスのとれた時間的指向性と名づけられた。

研究成果の概要（英文）：This study explores how identity development relates to time orientations in the transition to adulthood. The longitudinal data indicate that future orientation strengthens commitment but present orientation weakens it and promotes explorations. The findings suggest that identity development needs both future orientation and present orientation, namely a balanced time orientation.

研究分野：発達心理学

キーワード：アイデンティティ　時間的展望　成人期　縦断研究　ジェネラティヴィティ　キャリア発達　生涯発達　エルゴード性

１．研究開始当初の背景

青年期から成人期のアイデンティティと時間的展望の発達についての長期にわたる縦断研究は我が国では今までやられてこらず、世界的にみてもほとんどなされていない。そして、本研究により、青年期から成人期に至るアイデンティティと時間的展望の発達のすじみちがわかるのみならず、青年期のアイデンティティと時間的展望のありかたが成人期のアイデンティティと時間的展望、さらにはジェネラティヴィティにどのような影響を与えるかが解明できるのである。こうした検討は縦断研究でなければできないものである。このように縦断的な研究が積み重ねられていけば大きな学問的貢献が期待される。

２．研究の目的

成人期のアイデンティティの再構築の過程について時間的展望の観点から解明する。

３．研究の方法

（１）統計的研究

今年度は、第１に、縦断調査の対象者 320 名に対して、質問調査を実施した。調査の結果はデータを入力した。

第２に、データの揃っている 20 代の 12 年間におよぶ質問紙調査のデータ 232 名分を潜在曲線モデルで分析した。具体的には、時間的信念の構成要素である満足遅延、将来関心、現在重視を説明変数とし、アイデンティティの構成要素であるコミットメント、探求、危機を従属変数として、潜在成長曲線モデルでとらえた。その場合、21 歳、24 歳、27 歳、30 歳の地点にまとめて、４地点で分析した。しかしながら、21 歳を入れると、適合度が低くなったため、その地点を除いた３つの地点で分析した。すると、適切な適合度が得られた。

（２）質的研究

面接調査はジェネラティヴィティ・ステイタス・インタヴュー(Bradley, 1997; Bradley & Marcia, 1998)を行い、質的に分析した。

質問の方法は、まず熱意に関して予め質問１「子育てにはどのように取り組んでいますか」で熱心の程度を６件法で聞き，理由を書くよう求めた。面接では，どんなふうに熱心なのか，自分にとって重要だと思うか，若い人の面倒に置き換えたとき，回答は変わってくるかを聞いた。また，質問２「子育ては楽しいですか」で熱心の程度と理由を聞き，面接調査でも確かめた。

包容性は，質問１「良くないとしか思えない選択を子どもがしているのに，何を言ってもきかない時，どうしますか」と質問し，自由記述をしてもらったものに基づいて面接調査をした。質問２「子どもが巣立っていく時のことを考えると，どんな感じを持っていますか」の程度（５件法）とその理由を聞き，想像で答えているか，なぜそう思うかを聞いた。子どものいない１名には,「後輩や部下，若い人の面倒をみてきて，いよいよと思う時に離れていくような場合で答えて下さい」と教示した。

分析の方法は、熱意は，多大なエネルギーを傾けているか，子どもも自分も成長している様子が具体的に語られるか，包容性は，子ども／相手の意思を尊重しつつ，親／先輩としての責任は最後まで果たそうとするか，分離の寂しさやその克服の手立てが具体的に語られるかで評定した。評定は，当てはまる，どちらともいえない，当てはまらない，の順に３点から１点へと得点化した。

４．研究成果

（１）統計的分析

潜在曲線モデルによる分析の結果、満足遅延、将来関心という肯定的な未来への指向性がアイデンティティのコミットメントと探求を促進していることが明らかとなった。現在重視は、アイデンティティのコミットメントを減少させるが、探求を促進していることが明らかとなった。危機はいずれとも関連がなった。

以上の結果から、時間的展望のもつ構成要素がアイデンティティの構成要素に対してそれぞれ違ったかたちで影響を与えることが明らかにされた。つまり、第１に、未来指向的な時間的信念はコミットメントを促進させる。これは未来指向的な時間的信念が未来に希望と目標を持ち、その目標に向かって努力するために現在の満足を遅延させるため、コミットメントを促進させる。第２に、現在指向的な時間的信念はコミットメントを減少させ、探求を促進させる。これは、現在指向的な時間的信念は現在に注意を集中させ、現在を大切にし、さまざまなことに注意を開くため、自分のありかたを吟味し、別の可能性を検討するために、新たな情報を集めたり、周囲の人と話しあったりすることから、探求を促進させるのである。

こうして、20 代の時間的信念がもつ、アイデンティティの形成の前進的な側面だけでなく、退行的な側面のメカニズムを実証的に明らかにすることができた。アイデンティティの退行的な面は Marcia（2002）などによって提唱されてはいるが、縦断研究の結果に基づいて実証的に長期に検証しているものはみあたらないからである。

なぜなら、未来指向的な時間的信念は前進的な側面を強力に進めるが、現在指向的な時間的信念はそれに歯止めをかけるためである。ただし、現在指向的な時間的信念は歯止めをかけるだけではない。探求をも立ち上げていく。そして、新しいコミットメントを探り当てるのである。こうしたことは、Kunnen

（2012）のアイデンティティのダイナミック・システムズ・アプローチで提唱されているモデルと合致するものである。個人が文脈と相互作用しながらアイデンティティを発達させていくが、それはさらにシステムとしてのコミットメントと探求の相互作用をも促すのである。

今後の課題としては、さらにデータを積み上げて、30代以降の分析を行う必要がある。そして、20代のアイデンティティと時間的展望の発達が 30 代以降のアイデンティティと時間的展望の発達にどのような影響を及ぼすのかを明らかにすることが求められる。また、アイデンティティの前進と退行についてのメカニズムを解明することにつなげていくことが求められる。

（２）質的分析

ジェネラティヴィティのカテゴリーの分析の結果、熱意も包容性もある「世代的」は４名、熱意はどちらともいえないが、包容性はない場合を「中間的」と名づけると１名、熱意も包容性もない「停滞的」が１名であった。面接では、以下のような反応も少なくなかった。第１に、熱意に関して子どもを持つどの方も「子育てが大変だ」と言っていた。第２に、子どもがまだ小さい場合が多く、そのため子どもの独立は空想で回答したとした。第３に、子育てと若い人を育てるということとは重みが違っていた。以上のようなことを克服するために、「なぜそう思うか」「具体例をあげてください」という質問により、さらに突っ込んだ質問を行った。このことにより、世代継承に責任を持ちつつ、相互作用に開かれているという感覚を測定することができた。

成人期のジェネラティヴィティとアイデンティティの関連については、ほぼ関連があることがわかった。しかし、質問紙の結果と面接調査の結果では異なっており、それぞれが違った側面を測定している可能性がある。一般に青年期のアイデンティティが達成されていれば成人期のジェネラティヴィティが達成されると考えられるが、さらにMarcia（2002）によれば、成人期のアイデンティティは世話をする者としての自分に向けられているという。今回は、世話がある場合には自己は背景になるという関係があることがわかった。特に、仕事を持ちながら子育てもしている女性の場合には、自己に関係する領域は仕事でキャリア形成として行われているようだった。こうした生活または人生の領域との関係で、自己と他者のバランスが変化していくことが示された。

今後は、「中間的」とした地位をさらに明確にするなど，さらなる検討が必要である。さらに面接調査を重ねていき、ジェネラティヴィティのみならず、キャリアやライフストーリーの発達についても分析、その人のいきざまの全体を捉えることが必要である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

白井利明　(2015). 中年期のジェネラティヴィティとアイデンティティの関連についての研究課題－青年期との関連も視野に入れて－ 大阪教育大学紀要(第Ⅳ部門), **63**(2), 65-71.

Shirai, T., Nakamura, T., & Katsuma, K. (2014). Mindfulness and Identity Formation in Emerging Adulthood: Long-Term Longitudinal Dynamics of Time Perspectives. Book of abstracts: The 2nd International Conference on Time Perspective- diversity of approaches. Unity of passion- (pp. 74-75). Warsaw, Poland: Author. 査読有

Shirai, T., Nakamura, T., & Katsuma, K. (2012). Time orientation and identity formation: Long-term longitudinal dynamics in emerging adulthood. *Japanese Psychological Research*, **54**, 274-284. doi: 10.1111/j.1468-5884.2012.00528.x 査読有

Shirai, T., Nakamura, T., & Katsuma, K. (2012). Time perspectives and identity formation in emerging adulthood: Longitudinal study. In M. P. Paixão, V. E. C. Ortuño, P. Cordeiro, & R. David (Eds.), *First international conference on time perspective: Converging paths in psychology time theory and research. Book of abstracts.* (pp. 76-77). Coimbra: University of Coimbra. 査読有

Shirai, T., Nakamura, T., & Katsuma, K. (2012). Time belief and identity formation in emerging adulthood: 12 years longitudinal study. *Proceedings of Society for Research on Identity Formation -- 19th Annual Conference*, p.7. 査読有

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計１件）

白井利明　(2014). 発達心理学的研究　鑪幹八郎（監修）　宮下一博・谷冬彦・大倉得史（編）　アイデンティティ研究ハンドブック　ナカニシヤ出版, pp.115-126.

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕
ホームページ等
なし

６．研究組織
(1)研究代表者
白井利明（SHIRAI, Toshiaki）
大阪教育大学教育学部教授
研究者番号：00171032

(2)研究分担者
遠藤利彦（ENDO, Toshihiko）
東京大学大学院教育学研究科教授
研究者番号： 90242106

中村知靖（NAKAMYRA, Tomoyasu）
九州大学大学院人間・環境学研究院教授
研究者番号： 30251614

尾崎仁美（OZAKI, Hitomi）
ノートルダム女子大学心理学部准教授
研究者番号： 10314345

徳田治子（TOKUDA, Haruko）
高千穂大学人間科学部准教授
研究者番号： 40413596

勝眞久美子（KATSUMA, Kumiko）
一般社団法人 看護学生キャリア開発研究所
研究者番号： なし

(3)連携研究者
なし